

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	09708000413
法人名	認知症高齢者グループホームまゆ
事業所名	医療法人社団星野会
所在地	栃木県小山市犬塚88-1 (電話) 0285-25-8217
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成19年7月3日

【情報提供票より】(平成19年6月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年3月31日、平成12年12月1日、平成15年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	5 人	常勤4人, 非常勤1人, 常勤換算5人	
	6 人	常勤3人, 非常勤3人, 常勤換算5.8人	
	7 人	常勤5人, 非常勤2人, 常勤換算6.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,260円×日数	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理美容代(利用した場合) 1,000円~2,000円(種類により)</li> <li>・おむつ代(利用した場合) 40円~170円(種類により)</li> <li>・光熱水費 500円</li> <li>・用度品賃借料 500円</li> <li>・諸経費 320円</li> </ul>
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,380 円	

### (4) 利用者の概要(平成19年6月5日現在)

利用者人数	27 名	男性 7 名	女性 20 名
要介護1	11 名	要介護2	11 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 65 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	星野病院、暁クリニック、星野歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、30年来地域医療に取り組んできた医療法人が母体となっており、広大な敷地に協力医療機関であるクリニック、歯科医院、老人保健施設、関連社会福祉法人立の知的障害者授産施設とともに存立している。協力医療機関の医師は24時間対応していただけるようになっており、また併設の老人保健施設の看護師などのバックアップがある。避難訓練や防火のための設備の点検等も徹底している。食事面では、栄養管理のほか、食材は地元の商店や農家から仕入れるなど食の安全にも配慮しており、安心・安全への意識の高さがうかがえる。さらに、職員の資格取得のバックアップなどの人材育成にも力を入れており、職員もケアマネジャーや介護福祉士などの自主学習会に積極的に参加している。法人全体として、地域のネットワークづくりを構想している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回の外部評価を踏まえて、玄関入口の表示や申し送りノートを確認した職員がサインをするようにするなど具体的な改善を行った。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の外部評価にあたっての自己評価は職員全体で取り組んだ。3ユニットの入居者の状況などによって評価が分かれている部分もある。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>民生委員、利用者、利用者家族、地域の方に出席いただき、助言等をいただいている。市には参画をお願いしているが、会議への出席が今のところない。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>利用料の支払を原則窓口支払をお願いすることで、少なくとも月に2回は家族の訪問の機会をつくっており、行事などへの参加も呼びかけている。また、家族会があり、昨年はクリスマス会の開催に合わせて開催するなどして8割近くの参加を得ており、一言ずつお話しいただく機会をつくったりしている。無記名でご意見等を寄せていただくお願いをしたり、玄関に苦情記入の用紙を用意するなどしている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>自治会には加入していないが、自治会と調整して、自治会の催し(さくら祭り、文化祭など)に参加するなど交流の機会が増えてきている。納涼祭の際には花火師による本格的な花火を打ち上げており、近隣の方への説明、協力依頼をしつつ、参加を呼びかけるなどしている。また、食材は地元の商店や農家などから購入している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営の基本方針として、「利用者が主体である」、「『生活』プランを立てる」、「自発性を引き出す」、「自立性を引き出す」を重要事項説明書に記載している。また、「その人らしく」安心して生活できるよう配慮した介護計画を作成すること、地域や家族の協力を得るために地域貢献を行うことなどが明文化されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやカンファレンス、会議などの機会に話し合うなどしており、職員が大切にしていることがホームの理念と重なっていることが確認できた。主にADLに関する「今月の目標」が定められ、額装されて廊下に掲示されていた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、自治会と調整して、自治会の催し（さくら祭り、文化祭など）に参加するなど交流の機会が増えてきている。納涼祭の際には花火師による本格的な花火を打ち上げており、近隣の方への説明、協力依頼をしつつ、参加を呼びかけるなどしている。	○	母体法人は30年来地域医療に取り組んできており、ホームだけでなく、法人全体として地域の中に福祉ネットワークを構築していこうという構想を持っている。地域の理解を深めていながら構想を実現していくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえて、玄関入口の表示や申し送りノートを確認した職員がサインをするようにするなど具体的な改善を行った。今回の外部評価にあたっての自己評価は職員全体で取り組んだ。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、利用者、利用者家族、地域の方に出席いただき、助言等をいただいている。市には参画をお願いしているが、会議への出席が今のところない。	○	市の職員に参加してもらえるよう継続的な働きかけをしていくことに期待したい。また、法人で構想している地域ネットワークづくりの一環として様々な地域資源の方々に参画をお願いしていくことなどにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの開設時から、あるいはそれ以前から市の担当部署とは密に連絡をとっている。疑義事項などがある場合には管理者が積極的に市に出向いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払を原則窓口支払でお願いすることで、少なくとも月に2回は家族の訪問の機会をつくっており、行事などへの参加も呼びかけている。家族の訪問の際には個人記録を見ていただきながら暮らしぶりや健康状態について伝え、預かり金管理をしている場合には、出納状況を確認していただいている。	○	今年度は職員の異動がほとんどなかったが、今後、異動などがあつたときにはお便りで知らせたいと考えている。ホームだよりの充実にも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、昨年はクリスマス会の開催に合わせて開催するなどして8割近くの参加を得ており、一言ずつお話しいただく機会をつくったりしている。無記名でご意見等を寄せていただくお願いをしたり、玄関に苦情記入の用紙を用意するなどしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者ともになるべく職員を移動しない考えを共有しており、昨年度から今年度にかけての人事異動も少ない。また、職員はそれぞれの担当のユニットがあつても、3つのユニット全体のが分かるように申し送り、会議の持ち方などを工夫している。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、人材育成に力を入れており、看護師等の資格取得のために奨学金制度を取り入れたり、勤務上の配慮をしたりしている。また、職員間でケアマネジャーや介護福祉士などの資格取得のための勉強会を持ったりと組織的に職員の向上心を支える文化・制度づくりがなされている。昨年度は、ADLに関する研修を行うなど内部研修も行われている。	○	外部研修を受講した後に報告書を作成したり、発表の機会を作ったり、資料を回覧するなどして、研修で得た知識や技術を事業所全体で共有できるような仕組みづくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近くのホームとの交流があり、情報交換などを行っている。ケアマネジャーは地域の連絡会に参加している。	○	更なる質の向上のためにも、同業者との交流の機会を増やしていくことを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあったときには、まず管理者・ケアマネジャー・班長が訪問して面談をし、本人・家族にホームに来ていただき昼食を一緒に食べたり、ホームの様子を見ていただくなどしている。入居後は、ホームに来る前の状況を勘案しながら少しずつ居室環境を整えていくなど、徐々に場の雰囲気に馴染めるように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意なこと、経験などの生活史を踏まえながら、しもつかれ（郷土料理）や饅頭づくりなどを教えていただいたりしている。職員が「ありがとうございます」と声かけをしながら一緒に昼食後の後片付けをする様子が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴等のアセスメントの情報や、入居後に知った本人にとって大切な経験や出来事を支援に活かせるよう努めている。絵画や習字、歌などのレクリエーション活動も充実しているが、気が乗らない方などには無理強いすることなく、他の過ごし方をさせていただくようにするなどしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞きながら反映させるよう努めているが、要望・意向があまりないこともある。	○	本人・家族・職員などの思いを重ね合わせるという意味でも、センター方式のアセスメント手法などを取り入れるなどして、更に充実させていくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスを行いながら、定期的な見直しをしている。状態に変化があった場合には随時見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院の利用や買い物など、家族の付き添いをお願いしたり、職員が対応したりしながら入居者の要望に添った支援ができるよう努めている。また、敷地続きで法人のクリニックがあり、重度化・看取りにも対応できる体制があり、実際に看取りを行ったことがある。		

認知症高齢者グループホームまゆ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地続きで協力医療機関である法人のクリニックがあることもあって、かかりつけ医の変更を希望する方が多い。協力医療機関には24時間協力を仰げるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における指針」を定めており、実際に看取りを行ったことがある。協力医療機関の理解・協力のほか、隣接する介護老人保健施設の看護師のバックアップも受けられる体制になっており、職員間での方針の共有もなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳やプライバシーを大切にしており、個人情報の取り扱いにも注意している。排泄の失敗などがあつたときには、言葉のかけ方に配慮しながら、さりげなく対応するなどしている。訪問時にも誇りやプライバシーを損ねるような対応、言葉かけ等は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の一日の流れがあり、リハビリ、レクリエーション活動などのメニューも充実しているが、参加の無理強いはせず、参加しない場合には違った過ごし方を支援している。訪問日には午前中はカラオケを楽しんだり、午後はテレビを見る方、自室で過ごす方など思い思いに過ごされている様子が見受けられた。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じものを一緒に食べ、食材を話題にした会話などを交えながら楽しい食事の時間を過ごしていた。ゆっくりとした食事のペースの方には急かすことなく自分のペースで食べられるように配慮し、食後は食器重ねやテーブル拭きなど、入居者ができることを職員と一緒にっており、職員は「ありがとうございます」という言葉をかけていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3ユニットのうちの1つのユニットの浴槽を檜の浴槽に変えており、檜の香りを楽しみながら入浴できるようにしている。入浴の順番にも配慮している。週に2〜3回は入浴できるようにしており、入りたくないという場合には無理せずに、次の日にまた声をかけるなどしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや縫い物、洗濯物干しなどの役割ごとや絵画、習字などのレクリエーションの楽しみごとの場面づくりを支援している。習字などは展覧会に出品し、受賞する方もいるなど張り合いにもつながっているように見受けられた。安全性に配慮しながら喫煙、晩酌なども楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2ヶ月に1回程度の行事としての外出のほか、散歩、買い物、外食、図書館など外に出る機会を作っている。また、道路に面した立木のある中庭的部分にベンチを置いている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や掃き出し窓などに鍵をかけておらず、職員が目配り、気配りで鍵をかけないケアを実践している。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームとして年2回、夜間想定もして避難訓練を実施している。その他に併設の老人保健施設の避難訓練時に連携の訓練も行っている。また、月1回の消火器の点検にあわせて、コンセント部分に埃がたまっていないかを点検している。	○	大規模な地震、水害等への備えとして、隣近所より少し広い範囲での地域との連携体制づくりをしていくことにも期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する老人保健施設の管理栄養士がメニューをつくっているが、希望にも柔軟な対応がされている。食材は地元の商店や農家から仕入れるなど食の安全性にも配慮している。食事摂取量はバイタルなどとともチェック表で把握し、水分摂取量にも気を配っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の設備や備品等は、ほとんど家庭で使われるようなものを使っている。リビング部分が広く、ピアノや水槽のある3棟共用で使えるフリースペースもある。食事中はテレビを消すなど不快な音や光がないように配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家具等の持込は自由であり、入居者の趣味のもの（絵や書）などを飾ったり、机や観葉植物を置いたり、思い思いの居室づくりをされていた。持込の多過ぎる方もあり、動線を妨げないよう配置に注意している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。